

第2A分科会 美濃地区 関市 「子どもの発達に関する課題」

質問

不具合に即時対応するための職員や市の関係者機関の連携について、詳しく知りたいです。予算についても。(岐阜地区 小学校)

発表、ありがとうございました。実践交流会を定期的に行ったと言われましたが、具体的にどのくらいの頻度で行ったのでしょうか。また、その時間をどのように生み出したのでしょうか。SWOT分析で強みを把握するのはとても勉強になりましたが、課題はどのように把握したのでしょうか。(西濃地区 小学校)

特別支援教育コーディネーターを核とした体制づくりは、概ねどの学校でも同じように位置付けられていますでしょうか。特支Cや教育相談担当は担任を持っており、なかなかフットワークよく動けるわけではないため教頭のコーディネートが必要です。(岐阜地区 小学校)

特別支援教育CNを中心にSSWやSC、心の相談員と連携して実践を行う中、特にどんな有効な支援や連携の仕方があったのかを具体的に知りたいです。(西濃地区 小学校)

心理治療施設以外に、どのような機関から協力を得ていますか。また、そういった機関とつながるためにどうすれば良いですか。(東濃地区 中学校)

小学校連携する事で不登校対応で有効であった事は何か(岐阜地区 中学校)

校内特別支援教育アシスタント会の具体を知りたかったです。(西濃地区 小学校)

個に応じた支援体制づくりについて、研修や連携などすばらしいと感じました。重要なことは分かっているのですが、時間の捻出に本校は課題を感じています。実践交流会及び合同研修会、外部との連携を図る場など、実施回数や時間の生み出しの工夫などがあれば、教えていただきたいです。(岐阜地区 小学校)

喫緊の課題として、大変参考になりました。(可茂地区 中学校)

学習のステップ表というのは、どのようなもので、誰が、どのように使用するものなのか、もう少し詳しく知りたいです。(東濃地区 小学校)

学習ステップ表の実際のものが見て見たかったです。どのようなものなのか、興味をもちました。(東濃地区 小学校)

学習ステップ表が紹介されていましたが、具体的な内容を知りたいです。学習の基礎基本にかかる指導表のことでしょうか？(西濃地区 小学校)

外部機関との連携は取りやすいと思うのですが、幼保と小、小中との連携はなかなかとりにくいという思いがあります。年に何回くらい、どのような計画で進められているのかが詳しく知りたいです。(西濃地区 小学校)

外部機関(桜学館)との連携は何年目の取り組むになるのか(可茂地区 小学校)

サポート体制づくりについて、関係職員が集まる会議は設定してみえますか。(SSWやSCの方がそろうことが難しいので)(岐阜地区 中学校)

意見・感想

様々な問題を抱える児童への対応について、やはり、特別支援教育コーディネーターを核とした体制づくりや幼保小中・外部機関との連携などがとても大切であると実感しています。教頭として、学校や担任、保護者や外部との連携ができるよう、働きかけをしていきたい。(西濃地区 小学校)

様々な困り感を抱えた児童への対応は、学校の教育活動において重要課題であると日々感じています。本校は、通級指導教室が設置されていますが、特別支援CNに任せてしまっている面があり、またその他の支援を必要とする児童については教育相談担当者に、というように、支援体制が弱いと感じています。特に、支援を必要とする児童への対応の仕方の根本は「情報共有」「共通理解・行動」であることを再認識しまし

た。発表から学ばせていただいた中から、実践交流やミニ研修会を位置付けることや、SSW、SC、主幹教諭、外部機関等とのチーム体制作り、幼保小中学校間の連携に取り組んでいこうと思います。(岐阜地区 小学校)

様々な環境下に置かれ、様々な特徴をもつ子どもたちには、それぞれの対応が求められてくると思います。個を大切にすうえでも教師の対応力のスキルアップは欠かせないことだと思います。学校だけでは対応できないこともありますので、様々な機関とも連携しながら指導に当たっていきたいと思います。しかしながら、他の業務も多くあるのが教師の実情です。教職員の増員が欠かせないと思います。(美濃地区 小学校)

幼保小中並びに地域と連携を深めながら、困り感のある児童生徒が生まれないよう、体制を整えて取り組むことのよさを学ぶことができた。特に指導の一貫性と学力の向上、総合的な学習の時間の重複など本校区でもカリキュラムの再編をしていけるとよいと考えた。(岐阜地区 小学校)

幼保小中学校間の連携と接続に係る教頭の働きかけが参考になった。また、中学校区の教頭間で、一層情報共有に努めたいと思った。(岐阜地区 小学校)

幼保小中の連携不登校問題の対策の具体(岐阜地区 中学校)

幼保小中の連携を計画的に進めていること。更に、不登校等の課題についても、共通課題ととらえて共に解決していこうと、管理職を先頭に全職員が意識改革し取り組んでいることが参考になった。(岐阜地区 小学校)

幼保小中の連携の大切さを痛感した。特に、児童理解に努めるために連携したり、指導の一貫性と学力の向上のために、カリキュラムの見直し、また学習ステップ表の作成・活用をしたりするなど、多くの方策を実践されていることが心に残った。そして、これらの策を続けるための教頭のリーダーシップ・熱い思いが不可欠だと知った。ありがとうございました。(岐阜地区 小学校)

幼保小中の連携と接続がわかりやすかった(岐阜地区 小学校)

幼保小中の連携ができ、一貫した教育、子どもの成長をみまもることができ、参考になりました。不登校は、コロナ禍になり大きな課題です。小中共通の課題であることにも共感します。(岐阜地区 小学校)

幼保小中の地域連携や swot 分析の活用による俯瞰をする体制が素晴らしい。(岐阜地区 小学校)

幼保小中・外部機関との連携において、日頃から中学校区教頭会での情報共有をさらに行っていくことで、引継ぎ期間に担当者が引継ぎをするだけでなく、確実に児童についての情報共有ができるので、美濃市でも行っていきたいと感じました。(美濃地区 小学校)

幼保小中・外部機関との連携がとれていて素晴らしいと思いました。また、県内唯一の機関と連携があり、今後の学習・生活に明るい見通しがもてるのではないかと思います。よい点もあると思いますが、きっと課題もあるかと思います。どのようにして課題を解決しこれからの教育に役立てていけるかまたききたいなと思いました。(岐阜地区 小学校)

幼保小の連携、小中の連携を図ることが児童生徒の成長を促すことができるため、その役割を教頭が中心となって行う必要があることを再認識することができた。(可茂地区 小学校)

幼保から小学校、中学校までが連携して子どもを育てようとしていることが素晴らしいと思いました。連携と言いながら、一本の線の上ではあっても、点といった感じの連携しかできていないので、有効な形の連携のあり方を考えていきたいです。

総合的な時間の活動内容やカリキュラムは、気になってはいるもののなかなか手がつけられていません。担当者に任せるのではなく、教頭先生方が先頭に立って活動を見直したバイタリティに頭が下がります。学校間の活動を統一したことで、学校間での交流が生まれたことは、子どもの意欲に大きく関わったことであろうと推測します。参考にさせていただきます。(西濃地区 小学校)

幼稚園、小学校、中学校をコーディネートする事で、相互理解の充実や誰もが安心して生活できることにつながると感じました。また、何よりも9カ年という長期スパンで、不登校の対応を試みえるのが、素晴らしいです。(岐阜地区 中学校)

幼少保の連携の重要性はわかるが、各担当がバラバラで動いてしまうと情報が偏ってしまう。そのためにも教頭のリーダーシップが大切であると感じた。(東濃地区 小学校)

幼小中の連携について、共感しました。具体的な事例について、どのような場で誰が情報を共有するかを明確にすることが大切だと感じています。それが、問題が起きる前に対応するために必要なことだと考えます。関市は校区も広いでしょうから、こうした取組みも大変であろう中で、工夫して取り組んでみえ、大変勉強になりました。(東濃地区 中学校)

幼小中の連携が印象に残った。幼稚園と小学校、小学校と中学校などとの交流活動の位置づけがよい。行事の調整など、年間スケジュール作成時によく相談することが必要であると感じた。活動の精選も必要になるだろうと思った。(西濃地区 小学校)

幼小中・地域連携を進める上で、ICTを効果的に活用してみえる実践が素敵だと思いました。特に、不登校問題を未然に防止する策として、近隣の学校とオンライン交流会をして交流の輪を広げたり、中一ギャップに対応した「中学生と語る会」を設定したりするなど、直接対面できなくても時間と場を有効に活用すれば、連携が可能になることも利点だと感じました。ご提案、ありがとうございました。(西濃地区 小学校)

幼小の合同行事、小中の指導の一貫性や9か年を考えた学習ステップ、総合の見直しなど、連携していく中で、子どもをみていくということの重要性を感じました。また、そうやって連携していくことで、教師も多くの学びができるのだと感じました。(西濃地区 小学校)

民間企業の手法を学校経営に活かした分析方法(岐阜地区 中学校)

毎月の教頭会では中学校区で交流の時間があるが、これまでは事務的な仕事の確認に終始していたので、児童・生徒の情報共有にも時間を割いていきたいと思った。発達に課題があると思われる生徒について専門家の意見を聞きたいと思っても、どこの誰に協力を得ることができるのかが分からず、他機関とつながることができなかった。SC、SSWも含め、各機関の持つ特徴や強みをよく理解してつながれるようお勉強していきたい。小中学校の総合的な学習では重複するところがあり、生徒達にとっても新鮮味に×活動になってしまうことが見られたので、教員も児童・生徒も小中で交流できるとよい。コロナの問題が解決したときにはよりよい連携ができるよう準備を進めたいと思った。(東濃地区 中学校)

本校にも特別な支援を必要とする児童が多く、その対応に追われています。特に、保護者との懇談を教頭自身が一手に担っているのが実情です。貴校の実践を伺い、更に組織的に色々な職員の力を集結しながら対応していく工夫をしなくては、と改めて感じました。教職員の研修や実践交流会、連携を図るための情報共有の場など、働き方改革と両立させながら、粘り強く取り組んでいきたいと感じました。ありがとうございました。(岐阜地区 小学校)

本校においても同様の課題があり、小中合同の対策会議も開いています。ただ、なかなか他山の石的な意識が拭えないのが現実です。(岐阜地区 小学校)

本校では幼稚園保育園との連携交流がコロナ禍の中、なかなか再開しないことが、もどかしい。(東濃地区 小学校)

保幼小中・外部機関との連携を教頭として中心となって進めることの大切さを、改めて感じた。また、小中9年間で児童生徒を育てること、不登校の問題を小中共通の問題として捉え、町内教頭先生方と協力して取り組んでいきたいと感じた。(西濃地区 小学校)

保小中の連携の具体がよくわかりました。たいへん参考になりました。(飛騨地区 小学校)

保小が交流したり、小中が連携したりして、一貫した指導を充実させようとしているのが良いと感じました。(飛騨地区 中学校)

分科会や地区(市町村)によって切り口は異なっても、直面している課題やその出口は、共通するところが大きいと感じました。(可茂地区 小学校)

不登校問題を小中や小学校どうしで共通の問題として取り組んでいることに連携の大切さを学んだ。(西濃地区 小学校)

不登校防止のため、小中で交流・中学生が小学生に憧れを持たせるという場を設けたことが印象に残りました。(西濃地区 小学校)

不登校対策を小中学校が連携して行なったり、就学前に教頭が園児について懇談をしたりすることに魅力を感じました。本校でも、各機関との連携をさらに図りたいと思います。(西濃地区 小学校)

不登校児童生徒の増加が顕著な現在、教頭会で取り組むことの重要性を学ぶことができました。(可茂地区 小学校)

不登校を小中学校の共通の問題として捉える意識界改革、情報モラルの徹底し、保護者の安心感、学びの保証をしてみえるところ、取り入れていきたいです。(岐阜地区 小学校)

不登校を、小中の共通の問題点と捉えて、9年間でそだてるということです。(東濃地区 小学校)

不登校は、進路、生き方の問題でもあると考えます。だからこそ、小学校だけでなく、小中学校、そして外部機関との連携が重要であると思いました。(東濃地区 小学校)

不登校の問題を小中の問題として捉える、事例研のすすめ、今後私も取り組もうと思いました。ありがとうございました。(岐阜地区 中学校)

不登校の問題を小中の共通課題ととらえ、取り組んでいることに感心しました。子どもの成長に合わせた一貫した支援ができるのではと思いました。(美濃地区 中学校)

不登校の問題だけでなく、特別支援教育についても、小中9年間を意識し、カリキュラムや指導の見直しに積極的に取り組んでいきたい。(岐阜地区 中学校)

不登校に関する意識改革がまだまだ必要だと感じている。(岐阜地区 小学校)

発達課題に応じた支援のあり方(西濃地区 小学校)

発達について理解した上で、情報共有、連携体制をつくることの大切さを感じました。(岐阜地区 小学校)

悩みや困り感のある児童に対し、どの子も安心して生活できる学校づくりをしていくために、校内だけでなく中学校区での連携を図ることは大切だと感じました。9年間を見据えた取り組みの在り方を自校でも考えてみたいと思いました。(岐阜地区 小学校)

特別支援教育を充実させるため、教頭が積極的に関わってくることが大切であると気付きました。(岐阜地区 小学校)

特別支援教育や生徒指導においては、特に小中の連携や外部機関との連携が重要であることを日々実感している。共通認識・共通行動のために教頭の役割も大きい。学校間または外部とつながるために、アンテナを高くし情報収集、積極的なアプローチを心がけたい。(美濃地区 中学校)

特別支援教育は担当や担任に任せがちで自分も反省するところです。だからこそ教頭が学ばなければならないと考えていますし、学ばずして助言はできないと考えています。関市の教頭先生がたほどのように学ばれているのかも知りたいところです。ありがとうございました。(西濃地区 小学校)

特別支援教育の大切さを感じつつも、現実では閉塞感に苛まれながらの個々への対応に取り組んでいる現場も多いのではないかと感じています。特別支援コーディネーターの存在はそんな中において大変重要であり、現場の職員にとっても子供たちにとっても大きな存在であると思います。コーディネーター間がつながりともに情報交流をしながらスキルアップすると同時に各校に還元すること、さらに管理職自身が同等の知識や感覚を持って進めていくことにつながるものとして学ぶところが多かったです。(岐阜地区 小学校)

特別支援教育の重要性が大切であると、日々感じております。特別支援教育 CN を教頭が兼ねているため、全職員で共通理解、共通行動が図れるよう、終礼での生徒指導交流、校内支援委員会だけでなく、必要に応じて素早くケース会議等を開いていきたいと思います。また、中学校区の小中学校との連携を図り、情報共有をすることで、児童一人一人に応じた安心して中学校生活にと繋げていくことができると感じました。ありがとうございました。(西濃地区 小学校)

特別支援教育の充実が求められている中で、体制づくりや様々な連携について、大変勉強になりました。保小、小中の連携では、学びマップや交流なども積極的に行なっていて、教頭の役割について、改めて学ばせていただきました。(西濃地区 小学校)

特別支援教育に関わっては、特別支援コーディネーターとの連携と協力、他の職員や関係諸機関との連絡・調整を教頭が進めていくことが大切だと分かった。幼保小中学校間の連携に関わっては、自身の学校だけでなく、他校との連携・調整が子どもたちの発達をスムーズにさせることにつながると感じた。ICTの活用については、担任等の他の職員と子どもたちが気持ちよくタブレット等が使えるような環境設定や調整役として教頭が働きかけることの重要性がよく分かった。(美濃地区 小学校)

特別支援教育に関する連携や体制づくりに教頭が大きな役割を果たしている。本校でも特性のある児童が増えており、ぜひ参考にしていきたい。(西濃地区 小学校)

特別支援教育について本格的にみんなで考えていくというところ、とても大切だと思いました。特に桜学館との連携があるというのはとてもよいと思います。これだけ発達性障害・または傾向のある児童生徒が増えてきたということ、家庭教育力の弱さが学校への負担になってきているということ、学校教育の今後を見据えて動き出すきっかけになる一番の鍵だと思います。(可茂地区 中学校)

特別支援教育コーディネーターを核として、より専門的に教育支援について研修を行うことは、全ての子どもに対してどのような手立てを打てばよいのかを考えるよい機会となり、若手教員の育成につながることを学んだ。(東濃地区 小学校)

特別支援教育コーディネーターを核とした学校づくりに努め、外部機関と連携した学校運営が素晴らしいと思いました。また、「中学生と語る会」や「ダンスの体験講座」など、不登校問題に対する工夫した活動がありました。特に、「中学校の不登校問題を小学校のこととして考える」という言葉が印象に残りました。「困り感のある子ども」はどこにでもいます。一人一人と向き合い、その子にとって最善の方法を考え、小中連携を含めて組織で対応していくことの大切さを学ぶことができました。(岐阜地区 小学校)

特別支援教育 CN を核とした体制づくりがどの学校、どの学校種においても必要不可欠であると、改めて学ぶことができた。(岐阜地区 中学校)

特別支援教育 CN を核とした体制がうまくいくよう、教頭が支援することの大切さを、改めて認識した。(岐阜地区 中学校)

特別支援学級の増級と特別支援学級の指導経験者の不足が課題となっています。担任への指導体制の確立と外部機関との連携が早急必要と感じました。児童生徒数の減少に伴い、各校の連携を密にして、情報共有はもちろん、学校行事の合同開催も行っていくことも検討したい。(岐阜地区 中学校)

特別支援への組織的な取組について、参考になりました。(岐阜地区 小学校)

特別支援に関わって、2年間の勤務の中で地域にある外部機関との連携の大切さを私も感じました。昨年度のはじめに不登校の生徒が、相談室登校ではありますが、この11月は欠席0日でした。学級との関わりも増え、生き生きと生活しています。外部機関の方が、保護者も含めて支援していただいた成果です。(西濃地区 中学校)

特別支援コーディネーターを中核とした支援体制づくり(東濃地区 小学校)

特別支援コーディネーターを核とした組織づくりと助言についての具体を学ばせていただきました。また、幼保小中の連携として、外部機関の見立ても含めて交流をすることで子どもの発達を共有して支援できることを学ばせていただきました。ありがとうございました。(岐阜地区 小学校)

特別支援コーディネーターの職員を組織の中で充分活かしながら児童等の支援につなげるヒントを得ました。情報共有、共通理解、共通行動を大切に取り組んでいきたいと思います。また、外部機関との連携、つながりを意識していきたいと思います。(可茂地区 小学校)

特別支援コーディネーターが、いかに諸々の関係者をつなぎ、支援体制を組織するかが大切だと改めて感じました。私は、特別支援コーディネーターも兼務しているため、業務量が多く負担感も大きいですが、兼務の利点を生かしていかなばと思った。(東濃地区 小学校)

特別支援 CN を生かしつつ、縁の下の力持ち的存在として教頭部会が情報共有し支えていることが良く分かりました。教頭同士が、互いに話しやすい相談しやすい関係をつくっていくことが基本だと思いました。そのことが職員にも児童にもよい環境、体制につながると感じました。関市では、教頭間の連携が充実していることがよくわかりました。私自身も周りの教頭先生に支えていただくことが多い毎日です。今後も互いに連携を図りながら、教頭会としてのつながりを大切にしたいです。(西濃地区 小学校)

特別な支援を要する児童に対して、実態に基づいて事例を通した研修を実施しながら、分析や対応を学ぶことはとても効果的だと感じました。そのための企画や準備が大変だと思いますが、学ぶ意識の高い職員にとっては有効な手立てになると思います。そうだと理解していても、実際にはなかなか仕組むことができない内容なので、それが効率的にできる工夫があれば知りたいです。(美濃地区 小学校)

特別な支援を必要とする子どもたちをとりまく環境は様々なので、いろいろな視点からアプローチできるように立場の違ういろいろな人が関わることが大切だと感じました。そのために、教頭がコーディネーターと協力し、整理していくことが必要だと感じました。(美濃地区 小学校)

特性が強い児童への関わり方が、本校でも喫緊の課題となっている。組織的に、校内の動きや関係機関との連携を図る仕組みを作っているところが、とても参考になりました。(美濃地区 小学校)

同じ関市として、ここまでうまく発表をまとめていただき、代表の方に感謝です。(美濃地区 小学校)

途切れない支援を充実させるために、幼保小中の連携が充実していることはよくわかりました。ただ、今後のことを考えると、支援を必要としている児童生徒が、どのような高校時代を過ごし、社会生活を送っていけるのかという視点までもった小中学校時代を送れるようにすることが連携という意味では必要だと考えました。(東濃地区 小学校)

中学生と語る会、合同行事など、子どもと子どもが関わり合うことを位置付けているところをさらに取り入れたいと思いました。どんな効果があったのかを知りたいです。(東濃地区 小学校)

地域連携の具体をお示しいただけて、大変勉強になりました。とりわけ、個別の支援が必要なお子さん、通級や特別支援学級につなげることができなかったお子さんは、保小中の情報共有や指導内容などの連携は必須です。この点において、具体的な取組の提言は、今後に生きる大きな学びとなりました。ありがとうございました。(東濃地区 小学校)

地域の特性を活かし、多様な児童の実態を他機関の専門家を活用し、組織で工夫され対応されていることがわかりました。(岐阜地区 小学校)

地域との連携、小中の連携、他校と繋げることは、まさしく教頭の大切な役割だと改めて感じました。関市の発表の中で、小中9ヵ年を見通した学習ステップ表の作成についてはとても参考になりました。不登校児童が増加する中で、小中オンライン授業など、進学への不安解消に向けて取り組む必要性を感じました。(美濃地区 小学校)

地域、小中との連携とICTについては本校でも喫緊の課題ととらえているので、発表が大変参考になりました。(可茂地区 中学校)

総合的な学習の小中の学習内容のつながりについてはぜひ、取り入れていきたいと感じました。本校でも同じことがいえるので。(飛騨地区 小学校)

全職員の今日理解、共通行動が児童生徒の成長に大きな影響があることを再確認させていただきました。各コーディネーター、SC、SSW、相談員等との連携は、学校のシステムに組み込んで、確実にやりたいと思います。また、全職員への周知も必要不可欠です。特に、小中の連携について、改めて示唆を与えていただきました。(飛騨地区 中学校)

全市で発達に向き合うという一点突破の課題に取り組まれていること、幼保小中の連携を核に成果をあげられていることが大変参考になった。(岐阜地区 小学校)

専門家との連携による、問題となる行動の真因を掴むこと。素人考えや思い込みはうまくいかないこと。(岐阜地区 中学校)

積極的な外部機関との連携に関わって、分離不安や愛着障害における対応については、本校でも子相や警察、市の担当者等とともに連携を図りながら行っている。学校対応だけでは難しいケースについて、他の専門機関やプロと連携を図るため、教頭が適切にコーディネートできるようにすることも必要であると感じた。本発表には心理士、児童福祉士等とも協議したとの報告もあった。本校はそれらの方々との連携はないので、今後必要に応じてチームを組めるようにしたい。(飛騨地区 小学校)

生徒指導と特別支援教育の観点での幼保小中の連携が効果的に一本化している動きが大変勉強になりました。就学・進学前の教職員の聞取りや見学だけでなく、子ども達同志がつながったり、下の子たちに憧れや安心感を育むための合同行事や学習活動への招待、中学生と語る機会・ダンスなど学んだことの発信がとても効果的で勉強になりました。また、不登校の問題を小中共通の問題として捉える意識改革、強化は教職員の職務の本質としても、多種多様な社会・家庭環境が拡大している今日、今後もふまえて重要であり、各市町村でも効果的な在り方を研究実践していく必要があると実感しました。大変勉強になりました。貴重な実践報告ありがとうございました。(可茂地区 小学校)

生徒が生き生きと学校生活を送るために生徒理解の交流を市をあげての取り組みや事例を通して自校の生徒の対応に生かそうとしていることが素晴らしいと感じた(岐阜地区 中学校)

心理士等の専門家の見立てが多くの職員間で共有できるよう一層の連携が必要だと感じた。(西濃地区 小学校)

小中連携やICT教育、ふるさと学習など、大切に指導していることは共通していると感じました。その中でも、9年間を見通した学習ステップ表を作成され、出口の姿を見据えて取り組めるように工夫されていることや、複数の小学校から中学校へあがるときに、不安なく入学できるような工夫をされていることはたいへん興味深く思います。また、郷土のすばらしさを実感できるようなカリキュラムがあり、すてきなふるさと学習をしていっしょすることは、大切なことだと感じました。さらに、特別支援教育に力を入れることはとても重要なことです。CNを核として有効な支援や連携をされ、組織できちんと体制を整え、組織的に動くことを教頭会として進められていてすばらしいと思いました。不登校の問題についてはたいへん難しい面がありますが、教頭会で連携し、情報共有しながら方向性を確かめていけるとよいと感じました。

すばらしい発表をありがとうございました。(可茂地区 中学校)

小中連携のあり方が参考になりました。中学校の不登校は、中学校だけの問題ではないというところと、それを解消するために小中が連携を図り、小中共通の課題を洗い出し、指導に一貫性をもたせていることや小中9か年の学習ステップ表を作成し、活用してみえることはとても重要なことだと思いました。また、中学校の特色ある取り組みを小学校に紹介したり、中学生が卒業した小学校で語る場を設けたりして進学への不安を取り除く取り組みなど、今すぐにでもできそうな提案だったので、教頭として働きかけたいと思いました。(東濃地区 小学校)

小中連携だけでなく、保小の連携が強いと感じました。特別支援教育にも力を入れていることがわかりました。今後、様々な発達特性のある児童生徒が増えてくることを考えると、より個に応じた支援の必要性が出てくると思います。また、不登校児童生徒が増えている中、連携し情報共有しながら小中のチームで支援していくことが大切になってくるのかなと思いました。(東濃地区 中学校)

小中合同の職員室があるのは、子どもたちだけでなく、職員の交流ができとても良いと思いました。(岐阜地区 中学校)

小中合同で研修会を開催し、共通行動へつなげていけるところを参考にしたいと思いました。(岐阜地区 中学校)

小中共通の課題を明確にして取り組んでおられたことや、目的に適した特別支援教育コーディネーターを位置付けた組織づくりを行い、研修で教職員の資質を高めたことなどが保護者のニーズ(こどものニーズ)や安心感につながったのだと感じました。(飛騨地区 中学校)

小中間の連携や交流がなされていて、自校でも実践したいと思った。(西濃地区 小学校)

小中学校の連携の実践がとても参考になりました。小中一貫校のメリットを、児童生徒の安心安全、快適な学校生活に還元していかなければならないと思いました。(岐阜地区 中学校)

小中学校の連携による指導の一貫性と学力の向上という点で、参考にできることがたくさん見つかりました。小中9年間をつなぐことは、子どもたちの成長にとって不可欠であり、そこに不登校問題の対策としてという視点をもつことができることを学びました。また、学調の結果交流から共通課題を分析したり、総合的な学習のカリキュラムを再編したりすることなど、教頭の「つなぐ」という役割の具体をイメージすることができました。(美濃地区 小学校)

小中学校の連携で、合同行事を行うことや総合的な学習において指導の一貫性をもたせること、教務主任会を中心として全国学力・学習状況調査の結果をもとに学力の向上を図ること、全校研究会をお互いに参加すること、中学生と語る会を行うこと等、実際に行くと有効なことが具体的に挙げられていて、とても参考になり、分かりやすかったです。(西濃地区 中学校)

小中の連携の具体がたくさんあり、わかりやすい発表だった。小での取組を中でも継続していくことは具体でよく伝わった。(可茂地区 小学校)

小中で連携して不登校を減らす取組をしてみえることに良さを感じました。(岐阜地区 小学校)

小中だけでなく、保育園とも連携されている。入学前の子どもが小学校の生活を知ることで、ギャップやトラブルが軽減できると思う。(飛騨地区 小学校)

小中9カ年を見とおした学習ステップ表は、様々な立場の先生方にとって「ねらいの明確化」につながり授業のプランニングに役立つと感じた。ぜひ、実際のステップ表を見せていただきたい。(西濃地区 小学校)

小規模校ということもあり、特別支援コーディネーターを兼務しているのすごく参考になった。今は、コロナ感染症対策のため、なかなか保育園や中学校との連携がとれないが、合同行事等も行って9か年もしくは12か年のつながりを大切にしていきたい。一園・小・中の強みを生かしていくために参考にしていきたい(飛騨地区 小学校)

小規模の学校で保小連携を行っていたことが印象に残りました、本校も小規模校で隣接して保育園が在りませんが、コロナ禍でなかなか上手くいかず、今年度にやっと様々な交流ができればはじめました。この分科会で行ってのように真似からはじめてみようと思います。また、特別支援コーディネーターを活かすことの重要性もひしひしと感じました。(美濃地区 小学校)

小学校から中学校へのスムーズな橋渡しや、個別の支援の引き継ぎは、とても重要です。そのため、小学校との連携、十分な生徒指導交流が必要だと思います。そういう意味で、関市の取り組みは、とても参考になりました。(西濃地区 中学校)

就学前の児童の聞き取りについては教頭と養護教諭が行うことが有効であると思いました(東濃地区 小学校)

就学前からの外部機関との連携の必要性を実感していたため、幼保との連携の重要性を再確認できました。(西濃地区 小学校)

主幹教諭を中心として校区での連携を図っているため、不登校や生徒指導の問題に対して、情報を共有でき、指導に活かされていると感じます。(美濃地区 中学校)

主幹教諭の活用について大変参考になりました。(東濃地区 小学校)

児童生徒の実態に合った研修を行うとともに、幼保小中の連携を計画的に行っていきたい。(飛騨地区 小学校)

児童生徒が抱える問題は複雑化しており、保護者と学校だけでは行き詰まってしまうことも多い。外部機関との積極的な連携が効果的であると感じました。(飛騨地区 小学校)

児童心理療育施設という施設があることを初めて知りました。子供の発達に関する研修もとても具体的で、私も学ばせていただきたいと思いました。(東濃地区 小学校)

児童に関わり、小中学校で共通理解を図ることでスムーズな指導、支援ができます。同様に幼保小の連携により、児童理解が深まります。併設の保育園との関係づくりはとても有効だと思います。コロナ禍で他校、異校種の関わりが少なくなっています。以前と同じようではなく、新たな関係づくりを模索することが大切だと感じています。(岐阜地区 小学校)

支援が必要な生徒への対応等は、どこの学校でも課題となっていることと思います。さらに桜学館もあり、幼保小中だけでなく関係機関との連携が大切と感じます。そうした実態の中で、校内、関市としての体制を整備され取り組んでみえることを感じました。「連携」という言葉はよく使われますが、どんな組織で、どんなことをするのか具体的にしていることは少ないように感じます。そうした中で具体的に取り組んでおられることがよくわかりました。まずは、校内での取り組みの参考とさせていただきたいと思います。(可茂地区 中学校)

市教頭会において情報共有をし、懇談や支援に生かしているところが素晴らしいと思いました。教育支援に関わって検討するときに、支援側が適正であると考えたアセスメント方法、支援策であっても、合意形成をしていくときには慎重に提案する必要があると思います。特別支援教育コーディネーターによるコーディネートはもちろんですが、管理職として、どのようにイニシアティブをとるかということが大切になると考えました。(東濃地区 小学校)

子供の発達段階における学校の役割、地域の役割、教師のかかわりと支援の大切さを改めて学ぶことができました。(飛騨地区 小学校)

子供の発達に向き合うことの大切さを感じた(可茂地区 中学校)

子どもを把握することで適切な発達に寄与することができることを学びました。(可茂地区 中学校)

子どもの発達を促すために、こ小中の連携と共に、中学校区の小学校との連携も必要だと感じました。また、小学校と中学校の9年間を見通した指導が大切だと学びました。(西濃地区 小学校)

子どもの発達に向き合う取り組みにおける、教頭の役割が明確で、大変勉強になりました。特に、関市における、幼保小中・外部との連携、小中学校の連携が勉強になりました。また、中学校の不登校問題の対策として、隣接の小学校との交流を行う等で、不安を和らげ、不適応を減らすという取組が素晴らしいと思いました。(美濃地区 小学校)

子どもの発達に向き合う取り組みとして、特別支援教育の充実に向けて、教頭が果たす役割についてきめ細かな実践事例が紹介されており、来年度発表することになっている郡上市として非常に多くのことを学びました。一人一人の実態は当然違うのですが、自校の子どもの困り感解消に向けて、それぞれの学校が課題を抱え込み、這い回るのではなく、教頭が校内の繋ぎ役はもちろん、学校間の繋ぎ役にもなって、組織的にかつ市内教頭チーム一丸となって、支援していくことの大切さを実感できました。人、物、事をつなぐ教頭の役割についてさらに追究していきたいと思います。(美濃地区 小学校)

子どもに必要な支援のために、幼稚園・小学校・中学校・外部機関などと積極的・意図的に連携をとること、そのための組織作りが構築されていることを学びました。(可茂地区 小学校)

子どもたちの発達に応じた幼保小の連携と接続を有効支援につなげる大切さん勉強させて頂きました(西濃地区 小学校)

子どもが安心して幼稚園・こども園から小学校、中学校と進んでいけるように、教頭が中心となって諸機関と連携していく大切さを感じました。本校でも、以前の取組で行っていたこども園との交流を続けています。ただ、形骸化している面もあるため、何のために諸機関と連携していくかを教頭中心に共通理解し、活動を進めていくことが大切だと改めて感じました。(飛騨地区 小学校)

桜学館に行っている子がいるので学校とどのようにつながっているかがわかってよかった。(東濃地区 小学校)

桜学館と連携しているとは聞いていましたが、具体的に学ぶことができました。郡内にそのような機関があるかないかは非常に大きく、これからの時代、各地区にあると良いのかと考えました。(西濃地区 中学校)

桜学館という療育施設があり、専門家の見立てを踏まえた有効な支援が受けられるのが羨ましいと思った。また、幼保小の交流活動や中学生と語る会など参考になった。(岐阜地区 小学校)

困り感のある児童への個別対応の必要性、この頃、本当に実感します。そのための体制づくりがしっかりと進められていると思いました。特別支援教育の力は、全教員がつけていかなければならないと感じています。外部機関とのつながりは、今後、考えていきたい部分です。いろいろな研修を教頭がコーディネートしているところが、素晴らしいと思いました。

ICTについては、本校も試行錯誤しながら、研究としても進めているところです。保護者への発信については、まだまだ出来ていないところがあるので、今後、考えていきたいです。ありがとうございました。(岐阜地区 小学校)

今日的課題である不登校について、小小連携、小中連携の工夫によって中学校進学へのハードルを下げる取組が参考になった。また、関係諸機関とICTにより連携を継続する取組はタイムリーで効果が大きいと感じた。(美濃地区 小学校)

今後活かしていきたいです。(東濃地区 小学校)

校内研修を、子どもの実態に応じて行っているということが、若手教員のスキル向上にはとてもよいと感じました。発達障害、愛着障害の研修というと、それぞれの特徴などを学ぶという内容が多いのですが、目の前の子どもについて学べるとなると、ずっと頭に入ってきます。また、障害名は関係なく、その子自身の困り感に目を向けるようになります。こういった研修をすることで、例えばAさんだけでなく、他の児童にも般化させていくことができるようになります。本校でもぜひこういった視点で研修をやっていきたいと思いました。(可茂地区 小学校)

校区の小学校と連携して不登校問題に取り組むことは、とても大切だと感じた。小学校教員が中学校にも教科担任として行くことで、安心する子ども多いと思う。(美濃地区 小学校)

個々の児童生徒の発達の状況を適切に把握することはとても大切なことだと思います。本校では、児童生徒自身の困り感、保護者の困り感をつかんだらすぐに、その子に適切な指導はどうあるべきかを全職員で共通理解するために、個別の教育支援計画を積極的に作成し活用するようにしています。個別の教育支援計画が、児童生徒の確かな成長のための有効な手立てとなるように、教頭として外部機関との連携、他校との連携を図ることは必要不可欠なことだと思います。(東濃地区 中学校)

個に応じた支援体制をどのように組織するか。職員数や業務量など、課題が多い。(東濃地区 小学校)

個に応じた支援指導を行うために、特別支援教育を充実させ外部機関や幼保小中との連携を密にし、児童生徒の実態把握に努めること。教頭がその要となって学校運営を推進していくことを学びました。(飛騨地区 小学校)

個に応じた支援を確実にしていくために、どの教師の指導力は不可欠である。組織として取り組む大切さを実感している。また、一人の子どもは継続して指導していくものなので、小中9年間の意識をもって子どもを育てていけるように、連携して取り組む必要があると痛感している。(岐阜地区 小学校)

個に応じた支援・指導を行うための体制づくりの中で提言された、特別支援教育CNを核とした体制づくりについて、大変参考になりました。特別支援においては、チームで方向性を同じくして児童を支援していくことがより重要ですが、CNの個人的な気付きや動きだけでは限界があります。共通理解、共通行動を図るための組織作りをすることで、CNはより動きやすくなり、また職員は一人で抱え込まなくてもよいという安心感を得られると感じました。(美濃地区 小学校)

個に応じた支援・指導を行うための体制づくりと連携については、本校でも大きな課題となっております。障がいの特性を把握することなく、通常学級の生徒と同じように対応し、トラブルにつながる事例があります。特別支援教育コーディネーターを中心に今後も体制づくりをしていきたいと考えています。中学校区の小学校との児童生徒間の交流についても、中1ギャップ解消のためにも本校でも取り組んでいきたいと感じました。不登校問題は小中共通の問題である、まさにそう感じています。中津川市においても教頭会にて校区内での児童生徒の交流を密に行っています。(東濃地区 中学校)

個に応じた支援・指導の充実を図るために、個別の支援を要する特別支援教育の充実にも取り組み、体制作りと連携が図られていることがよく分かった。本校としても課題となっている部分であるので大変参考となった。(可茂地区 中学校)

個に応じた支援・指導において、校内の体制づくりだけでなく、外部機関とも積極的に連携しながら教職員の指導力を高める研修を位置付け、様々な発達課題をもつ児童・生徒に対して、すべての子どもが安心して楽しく学べるための取り組みに共感できた。(可茂地区 小学校)

個に応じた支援・指導として、児童の実態を知るために SWOT 分析を用いて、客観的に実態を把握する手立てを取り、実践交流会では、その実態に応じた有効な手立てを学び合うところを取り入れたい。(西濃地区 小学校)

個に応じた指導の重要性と小中連携(タブレットも含め)(東濃地区 小学校)

個に応じた指導については頭を悩ませていることである。教員数が少ない中、どのように児童や家庭からの要望、児童対応をしていくとよいか大変困っている。学校規模にもよるが、どのように対応しているのか知りたい。(岐阜地区 小学校)

個に応じた指導・支援を切れ目なく継続的に行うためにも、体制づくりや幼保小中および外部機関との連携は不可欠だと感じます。体制づくりや連携について、具体例を教えてくださいました。ありがとうございました。(岐阜地区 中学校)

個に応じた指導・支援として、特別支援教育 CN を核とした体制づくりは有効だと思った。校内の教育支援委員会に上がった児童に対しての支援が上手く進まないことがある。それは、担任任せになることがある。組織的に、定期的な打ち合わせや記録ファイルの情報共有が行われることで、個に応じた就学指導、学習・生活支援が進められると思った。(西濃地区 小学校)

個に応じた指導、支援を大切にするために、研修を行ったり、具体的な支援のあり方を示したりすることや、特別支援学級等困り感がある児童の共通理解、共通行動の大切さ、外部機関との連携についてを学ぶことができました。また、小中を通しての総合的な学習のカリキュラムや学習ステップは大変興味深いものでした。自分の校区でも話題にしていきたいと思いました。(岐阜地区 小学校)

個に応じた指導、支援をよりよくするための教師の指導力向上をいかに図るか、特別支援CNを活用している点がよく感じた。また、ICTがたいへん効果的に使われていることが分かった。(美濃地区 小学校)

現任校の特支担当教頭として興味深く視聴しました。CN との関わりや教頭としてどのようにかわるかを整理された発表ですっきりしたきもちでした。いかに組織化するかが仕事なのだという気持ちが強くなりました。(西濃地区 小学校)

現任校でも特別支援教育の充実が学校課題の一つです。特別支援コーディネーターを核とした体制づくりをするためには、まず、教頭が児童の実態把握、職員の実態把握等をしたうえで組織で体制を整えていくことが重要だと改めて分かりました。関係職員との共通理解や共通対応をしっかりと仕組みでいけるよう、リーダーシップをとっていきたいとおもいました。本日は、ありがとうございました。(西濃地区 小学校)

現在、子どもの困り感が多岐に亘り、それに適切に対応していくためには職員の専門性を高めることが大切であると感じますが、それにも限界があるのも現実だと思います。それを補うための校内の連携、校外との連携はとても大切だと思います。また、ICT 技術の発達で学校間の交流も幾分かその敷居も低くなってきているので、かつては年1回程度の中学校進学に向けた小学校間の交流も、オンラインで頻繁に行えるのはとても良い取り組みだと思います。ありがとうございました。(東濃地区 小学校)

研究主題に関する講演会(外部講師)を教頭会に位置付け、研修を積まれるのは良いことです。管理職として、より高い知識を得ることも勉強になって良いと思います。SWOT 分析を活用して学校の強みを自覚した上で、必要な研修を設定したり、先生方への指導・助言に役立てたりする方法は、本校でもやってみたいです。(岐阜地区 小学校)

郡上市教頭会も来年度に研究発表を控えています。大変参考になりました。ありがとうございました。(美濃地区 小学校)

郡上市でもSWOT分析を取り入れていますが、特別支援教育コーディネーターを活用した実践が参考になりました。分析後の新しい視点を与えていただきました。ありがとうございました。(美濃地区 中学校)

具体的な事例をもとに専門家を交えて見立てや指導法を検討する会を本校でも行ってみたいと思った。(岐阜地区 小学校)

勤務校でも、義務教育学校へ統合する計画がある。現在は、授業交流などを行っているが、さらに連携を深めていくために、とても参考になった。(可茂地区 小学校)

勤務校では1小1中のよさを生かすために、小中学校全教員参加で年間2回、小中連携会議を行っている。この連携会議をより意味のあるものにするように、今回の研究を通して学んだ市内の他校の取組を参考にしていきたい。(美濃地区 中学校)

教頭同士が児童生徒の交流、引継ぎを行うことが大切である。ともすると生徒指導主事に任せている部分であるが、管理職として保護者対応、学校間の情報交流など、常に窓口となる者が明確に児童生徒やその家族について知ることが有益である。(可茂地区 小学校)

教頭は「つなぎ役」、外部機関や校区の学校とつながり、職員の視点や視野を広げることが自校の教育に有効に機能させることができると感じた。(美濃地区 小学校)

教頭のリーダーシップがとても重要だと感じています。(岐阜地区 小学校)

教頭と特別支援コーディネーターとの連携や、外部機関との連携など、教頭でしかとることができない連携のため連絡調整など重要な役割を果たすことは重要と考えています。提案では、具体的な連携の在り方を学ぶことができました。ICTなどを利用した連携については、今後参考にさせていただきたいと思います。(岐阜地区 中学校)

教頭として特別支援CNに、どのような働きかけをすると良いのか、具体的に分かった。(岐阜地区 小学校)

教頭が特別支援CNを兼ねているため、参考になる実践でした。(飛騨地区 小学校)

教頭が、個の支援において、特別支援教育コーディネーターや外部の専門家とうまくつながり、生かしていく必要があること、とても納得できた。個の支援に必要な児童生徒は、従来の経験と勘では対応できない場合が多く、医学・心理学・応用行動分析学などの科学的な知見が必要になってくると考える。現場においては、この科学的知見に対しては、抵抗感があり、それをうまく繋いでいくことが必要なのだろうと感じた。学ばせていただき、ありがとうございました。(岐阜地区 小学校)

教師の指導力向上を図るために、中学校区で交流推進、ICT活用事例の交流等、教頭会が繋ぐ、深める、広げる役割を担うことの重要性を感じた。また、不登校の問題を小中共通の課題と捉え、協働的に取り組む組織を構築し、継続的に取り組むことは今後より必要となる視点だと感じた。(岐阜地区 小学校)

喫緊の課題として、大変参考になりました。(可茂地区 中学校)

義務教育学校をたちあげるにあたって、スムーズに子どもも教師も移行していく仕組みがすてきだと思いました。幼保小中と連携していく過程や組織が理想的だと思いました。大きな市でもこのような仕組みが実現できるといいと思います。(可茂地区 小学校)

規模が似通っていて参考になる事例が多く学びが多かったです。(岐阜地区 中学校)

関市は、特別支援教育の体制が充実していると言うことを聞きます。今回の発表を見て、それが実感できました。「個に応じた指導」「CNを核にした組織的支援」「縦と横の連携」特別支援教育にとって大事なことが充実していることが分かりました。本校は、人事配置の関係上、教頭が特別支援CNを兼務しているため、職員への指導や助言が十分にできているか不安ですが、今回の発表参考に、できることを粛々と進めようと思います。(可茂地区 小学校)

関市の地域全体が困り感を共有して教頭が中心となって連携して動くことができていることが素晴らしいと感じた。(美濃地区 小学校)

関市の取り組みが少しでも他の地域に広がっていくといいなあと感じました。(美濃地区 小学校)

関市の ICT 機器利用が充実している点を改めて実感できた。同じ関市であっても参考になることが多く、困った場合の活用方法を親切に情報共有していただける点ありがたい。他地区の学校も参考になったと思う。(美濃地区 中学校)

関市が以前から取り組む SWOT 分析を、特別支援の点に絞って行い、生かしてみたいと感じました。また、特別支援CNが今以上に中核となれるよう体制を整えることの責務を学びました。(美濃地区 小学校)

関係機関との連携、その窓口になる教頭の役割の重要性について、よく分かりました。また小中学校の生活や実態を、子どもたちがオンラインなどで知る機会を増やすことについて、とても勉強になりました。(西濃地区 小学校)

学校課題解決に向けたSWOT分析は効果的であり、ぜひ取り入れたい。(東濃地区 小学校)

学校の教職員だけでなく、SSW, SC、心の相談員などの専門家との連携体制ができていて、チームでの支援体制ができてることがとても良いと思います。教職員だけでは、経験値で考えてしまうので、専門的、科学的な見方に基づいた指導が今後とても必要なことだと思います。その連携の仕方を学んで、自校のある町でも実現できるようにしていきたいと思います。小・中の連携の在り方についても、とても参考になりました。中1ギャップの未然防止につながり、たいへん良いと思いました。(可茂地区 小学校)

学校の課題を解決するために活用された SWOT 分析というものを、恥ずかしながら初めて知りました。確かに自校の強みや弱みを分析することで有効な手立てを明確にすることができると感じました。また、中学校で不登校になることを小学校の問題でもあるととらえ、語る会や交流を位置付けて、不安を軽減する取り組みとされている実践が参考になりました。ありがとうございました。(岐阜地区 小学校)

学校の運営にいかしたい(東濃地区 小学校)

学校には様々な児童生徒がいます。今回の教頭の役割として、学校内での体制づくり、学校外との連携など、大変参考になりました。また、就学前の幼保と小学校との連携や中学校区の情報共有も大切だと思いました。保育園と小学校の合同行事についてはこれまで考えていないことでしたので勉強になりました。安心して同じスタートラインに立てるよう、私も教頭として幼保小、小中をつないでいきたいと思いました。(可茂地区 小学校)

外部組織の役割や専門性を把握して、子供の発達の支援や教師の理解を深める研修を進める必要性がよくわかった。(東濃地区 小学校)

外部機関との連携は教頭の役割のひとつであり、とても重要であることを再認識しました。(飛騨地区 小学校)

外部機関との連携した、合同研修会を実施する取り組みが参考になりました。学校の現状を見極めた研修会の位置付けができるかどうかが大切だと感じます。(岐阜地区 小学校)

外部機関として児童心理療育施設「桜学館」との連携ができることは、羨ましい限りです。(岐阜地区 中学校)

外部との連携や保護者との連携は積極的に進んでいると思いますが、個に応じた指導や支援をするために、もっと教員自信が学ばなくてはいけないことを日々感じています。ICTを有効活用し、校区の小学校や中学校と児童生徒・教職員も、もっと気軽につながることをできるようにしたいと強く思います。(飛騨地区 小学校)

海津市でお世話になっていたとき、SWOT 分析を活用していました。学校の長所や短所が分かるので有効かと思っています。(西濃地区 小学校)

改めて、どの学校も発達に課題があるお子さんの対応に苦慮されていることがわかりました。その中で、関市さんの実践は不登校も含め、教頭が窓口になっての活動は大いに参考になりました。本市でも児童養護施設はありますが、具体的事例の合同検討会は行っていないので、学校長に具申したいと思います。ありがとうございました。(東濃地区 小学校)

回収ボックスによる資源回収はとても参考になりました。PTAの在り方や関り方を考えさせられる内容でした。(可茂地区 中学校)

ニーズが増えている特別支援教育への組織作りの進め方が参考になりました。(東濃地区 小学校)

それぞれの分掌をどのように関連付け、体制を整備していくのか。これは意外と難しいことではないかと感じています。特に特別支援教育は教育相談的な側面や生徒指導的な側面も含んでいることからなおさらです。その時に教頭がリーダーシップを発揮し、コーディネートしていくことは必要不可欠なのかもしれません。実際、私は特別支援教育CNと教育相談CNを兼ねていることから、動きは作りやすいのですが今後この体制をどうやって維持していくのか。そのことを不安に思っています。貴重な実践をありがとうございました。(飛騨地区 小学校)

サポート体制を構築し、有効な連携の仕方を整理することの大切さを再認識しました。(東濃地区 中学校)

ご実践発表から共通理解を図ったり、見立てなどの指導力を向上したりするための交流会や研修会の位置付けや他機関との連携の大切さを改めて感じました。また、本校も同じ敷地内に幼稚園があり、幼小の連携を大切にしたいという取組をしていますが、小中の連携が十分でないと感じました。全国学テの結果から読解力を重点に置いた朝学習を一貫して実施していることや総合の活動内容の重複を修正し、小学校のカリキュラムの再編をされていること、「中学生と語る会」を位置付けられ、進学への不安を和らげる取組等から、学ぶべき点が多かったです。ありがとうございました。(西濃地区 小学校)

これからは管理職も特別支援教育の見識が求められる時代になっていくため、教頭自身のスキルアップが必要だと感じた。(岐阜地区 小学校)

カリキュラム、学力、不登校について小中が連携して取り組んでいくことは、児童生徒を生き生きと育てるのに大切なことだとつよく感じます。(美濃地区 小学校)

いろいろな困り感をもった児童が非常に増えています。その児童にどのように指導・支援をしたらよいか悩んでいる若い担任がたくさんいます。保幼小中・外部機関と連携しながら取り組むことはとても大切です。お互い実態を交流していくことを今後も大切にしながら、子どもたちも職員も笑顔で夢を語り合えるそんな学校にしていきたいです。教頭としてそのコーディネートをうまくしていきたいと感じました。(西濃地区 小学校)

いろいろな機関(園・小中も含めて)との連携をとり、共通して取り組んでいくことは子どもたちのためでもあり、教職員のためにも十分効果、成果があると感じた。9年(12年)を見通して、校区(地域)として子どもたちを育てていくことはとてもよいと感じた。(東濃地区 小学校)

SWOT分析を元にして、学校の強みと課題を明らかにして、個に応じた支援・指導を行うことが、指導の方向が明確になり、また、教師自身も力を発揮し有用感をもって取り組めると感じました。(美濃地区 小学校)

SWOT分析を活用して学校の課題を解決しているところが参考になりました。(西濃地区 小学校)

SWOT分析を活用し、見えてきた課題を特支コに助言していく点(飛騨地区 中学校)

SWOT分析という方法を初めて知ったので、勉強して学校経営に役立てられるようにしたいと思いました。(東濃地区 小学校)

SWOT分析が興味深かったです。やってみたいと思いました。特別支援COを核とした体制づくりは重要で、学校の実態に応じて機能的な組織にしていくことが必要であると学んだ。また、共通理解・共通行動も大切な視点であることに大変共感した。(岐阜地区 小学校)

SWOTを活用した実践が勉強になりました。また、幼保小中の連携では行動行事を仕組んだり、総合カリキュラムの再編などの取組が参考になりました。(美濃地区 小学校)

ICT機器を効果的に活用して、個に応じた指導を充実させていきたい。(美濃地区 中学校)

ICTの有効性を授業実践でとどまらず、保護者への周知をすることで家庭での利用にも理解が深まるので、取り入れたい実践であると感じました。(岐阜地区 中学校)

ICTの有効活用について、アイデアをもらいました。(岐阜地区 中学校)

9年間の学習ステップ表はとてもいいなと思います。(東濃地区 小学校)

9か年を通した支援カリキュラムの活用は発達障がいと思われるお子さんが増加している現状を鑑みると、今後どの市町でも検討していく必要があるのではないかと感じました。(西濃地区 中学校)

1人の子供を大切にしていることが、情報共有や面談、合同行事、総合的な学習の時間、不登校対策としてのオンライン交流など様々な取り組みを行っていることがわかった。ここ数年だけでも様々な対応を必要とする児童生徒が増えている。ぜひ参考にしたい。(岐阜地区 小学校)

小中の連携が、行事や学習、不登校対策と幅広く展開されていることが素晴らしいと思った。どの場でも教頭先生が先頭に立ち、より効果的な取組みとなるよう要となって動いてみえることが、「夢のある明るい学校」の具現につながっていると感じた。(岐阜地区 小学校)

愛着障害や分離不安については、大変気にかけていくことの一つだと考えています。障害や不安によって日常生活がうまくいかない生徒もよく見られます。不安を取り除いていくような共通理解を行い、そしてそれを進めていくような研修等を考えていくことが大事だと思いました。本校では専門家に来ていただき職員研修と行っておりますが、今後も続けたいと思います。ありがとうございました
(美濃地区 中学校)